＜診療科目別配慮ポイント＞

病院の水まわり空間設計では、専門とする診療科目により、
それに応じた特別な配慮が求められることがあります。
代表的な各診療科目ごとの配慮ポイントをご紹介します。

内科

- □ 車いす使用者・介助が必要な患者さんの割合が多いため、どの病室からもアプローチしやすいところに広めのトイレ、車いす使用者対応の洗面器を配置する。
- □ 高齢者が多いため、転倒事故対策に配慮し、前方に手すり、ナースコールを優先配置する。
- □ 蓄尿、採尿をされる方の割合が比較的高いため、トイレと汚物処理の動線に配慮する。
- □ リウマチの患者さんには、立ち座りしやすい高めの便座を設置する。
- □ 下痢や頻回な排せつのため、トイレが汚れやすいので清掃性は特に重視したい。

消化器外科

- □ 手術直後から退院するまでの状態の変化や動作範囲の差が大きい。
  早期離床をはかるためにはベットからトイレ、洗面所までの距離は短いほうがよい。
- □ 下痢や頻回な排せつのため、トイレが汚れやすいので清掃性は特に重視したい。
- □ 便の検査が必要な場合も多く、自動洗浄は避けタッチスイッチ洗浄が望ましい。
- □ オストメイト専用の流しまたは、パウチ・しびん洗浄水栓は、病棟に必ず設置することが望ましい。
- □ 腹部から排液を貯めるバックをかけるフックを設置することが望ましい。

脳神経外科

- □ マヒなどにより、生活動作に介助を必要とされる方の割合が多い。
  車いす介助がしやすいゆとりのある空間を多めに確保することが必要である。
- □ 左右のマヒどちらからでも使いやすいように、水まわりは左右勝手の配置が必要である。
- □ 後遺症などにより体のバランスを崩しやすいので、転倒事故が多い。
  姿勢を安定させる前方手すりやアームレストの配慮が求められる。
- □ ナースコールは目に付きやすく、最も届きやすいところへの配置が求められる。

整形外科

- □ 車いすやつえ等の使用率が高い。他の診療科に比べて自立で移動補助具を使用する方が多いため、
  どの病室からもアプローチしやすいところに広めのトイレが必要である。また、つえの置き場所や
  伸展車いすでのアプローチ性にも配慮が求められる。
- □ 体のバランスを崩しやすく、転倒事故が多い。
  連続性のある手すり、立ち座りしやすい手すりの配置などが必要である。
- □ 左右どちらからでも使いやすい配慮が求められる。

回復期リハビリテーション

- □ リハビリ専門の病棟なので、入院から退院までの間に動作範囲や移動補助具の種類の変化が大きい。
  身体状況の変化に応じた水まわりプランが求められる。
- □ リハビリの一環としてトイレや洗面を使用するため、転倒事故が起こりやすい。
  適切な手すりの配置、届きやすいナースコールの配置が必要である。
- □ 不安定な状態でトイレを使用するため、周囲を汚しやすく清掃性への配慮が求められる。

泌尿器科

- □ 自立で水まわりを使用される患者さんの割合が多い。
- □ 排尿の障がいによりトイレの使用回数が多くなる傾向がみられるため、
  各病室からのアプローチ性の配慮が求められる。
- □ 蓄尿、採尿をされる方の割合が多く、トイレと汚物処理動線への配慮が必要である。
- □ オストメイト専用の流しまたは、パウチ・しびん洗浄水栓は病棟に必ず設置することが望ましい。

眼科

- □ 眼帯をされている方が多いため、視認性の良さが求められる。
  床、壁と器具類にはコントラストをつけて、分かりやすい空間にすることが必要である。
- □ 視力が低下していると、ものに顔を近づけたり手探りをすることがあるため、
  器具類の出っ張りや危険なものは周囲から除く必要がある。
- □ 片目でも見えやすいように左右勝手の配慮が求められる。

産科・婦人科

- □ 妊婦さんには、一般よりやや広めの動作スペースが必要になる。
  また、立ち座りに苦労される方が多いため、適切な手すりや背もたれの設置が必要である。
- □ ナプキンやパットなどの一時置き棚や大きめのチャームボックスの設置が求められる。
- □ 手術前後の採尿・蓄尿が多いため、トイレと汚物処理動線の配慮が求められる。
- □ ご家族の来院が多いため、見舞客用のトイレ配慮（男性、子ども配慮）が求められる。

小児科

- □ 乳幼児から中学生まで体格の差が大きいため、
  広さや使用器具は体型にあわせたバリエーションを設置することが望ましい。
- □ 介助者が見守りできるスペースの工夫や、
  いたずらや誤動作が起こらないような分かりやすさへの配慮が求められる。
- □ 乳幼児のトイレトレーニングスペースとして、楽しく使いやすい空間の配慮が求められる。

精神心療科

- □ 自傷行為、自殺などを予防するための対策が必要になる。
  危険な突起物のないシンプルな空間で、医療スタッフの目が行き届く配置が求められる。
- □ 患者さんがものを詰まらせることも多く、メンテナンスしやすい掃除口付きの器具や、
  より堅牢で壊れにくい器具が求められる。
- □ トイレや浴室の中に閉じこもりを防止するために、外から鍵を開けられるドアの仕様が求められる。
  ※保護室については、別途注意が必要になります。